

知事とのふれあい対話（南種子町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
宇宙関係による地域活性化	<p>県の各種計画書等を見たときに、宇宙関係の内容が項目として出てこないような気がしている。もっと県が引っ張ってもらって、促進を図ってもらいたいと思っている。</p>	<p>県では、地元自治体や関係団体等で構成する県宇宙開発促進協議会などと連携し、円滑な打上げ環境づくりに努めているほか、同協議会を通じ、関連予算の確保や宇宙関連産業の立地支援などについて、国等に対し要望活動を行っております。</p> <p>また、宇宙開発・利用に対する理解促進などを行っており、これらの活動についての情報発信にも努めてまいります。</p>	<p>総合政策課 地域政策課 新産業創出室</p>
ロケットを運ぶ道路の3車線化について	<p>ロケットの陸送に欠かせない島間港から宇宙センターまでの国道、県道において、現在2車線のところを、何とか3車線にできないかと、国、県に要望していると聞いているが、県の方では2車線で改良済みであるということのようであり、緊急時の車両の離合ができるように、住民の安心安全のために、是非とも3車線化について実現できるように、国へも要望をしていただきたい。</p>	<p>島間港から宇宙センター間の、県が管理する、国道58号（島間上中間）、県道荃永上中線（上中荃永間）、県道西之表南種子線（宮瀬橋から宇宙センターへ向かう区間）は、いずれも2車線で改良済みとなっています。</p> <p>本区間は、交通量に見合う車線数を確保していることから、3車線への改修については、整備の必要性や緊急性、救急車両による搬送のための課題など、JAXAや地元関係者などの意見を伺ったうえで検討したいと考えております。</p>	<p>道路建設課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>高速船の運賃について</p>	<p>来年の4月にまた1000円、賃上げされるということで心配しているが、観光目的や帰省する方も、運賃が高いとなかなかこれない、それがネックになって、観光業にも響いてくるのかなというの、現状かなと思っている。県の方で何か施策がないのか、お伺いしたい。</p>	<p>離島は本県の魅力的な観光資源であることから、離島が持つ豊かな自然や個性ある文化・伝統などの情報発信のほか、周遊観光ルートの旅行商品化など、引き続き積極的な離島への誘客を図ってまいります。</p> <p>また、県においては、特定有人国境離島地域における住民の移動コストの負担軽減を図るため、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用し、運賃割引制度を実施しているところであり、当該事業について、引き続き関係市町村、関係事業者等と連携し、効果的な周知を行ってまいります。</p> <p>なお、県では、令和3年度に、離島への旅行については本土内の旅行よりもコストが多く掛かることから、「かごしま旅クーポン事業」において、離島分の旅行券にプレミアムを上乗せしたほか、国の補助事業を活用して実施している「今こそ鹿児島島の旅（第2弾）」や国の「G・T・トラベル事業」については、開発促進協議会や知事会等を通じて、国に離島の割引上限額の引上げ等を要望するなど、より多くの観光客が離島へ訪問することを促す取組を行ったところです。</p> <p>しかしながら、国においては、特段、離島への特例措置が講じられていないことから、令和4年度は、鹿児島G・T・トラベル推進事業において、県独自に離島への旅行に係る割引上限額の上乗せを行うこととしています。</p>	<p>観光課 交通政策課</p>

知事とのふれあい対話（南種子町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
高速船の新造船について	<p>高速船が就航し、35年以上経って、船自体ももう古くなってきている。 新しく、船会社の方が作ってくれるのか。 この先、高速船がどうなっていくのかという不安も少しあるが、知事としての見解を伺いたい。</p>	<p>県では、赤字航路であることなど一定の要件に該当する離島航路の船舶建造費について、国と協調して補助を行っているところですが、種子島・屋久島航路のジェットfoilは、現在のところその要件には該当していないところです。 県としては、国や、ジェットfoilが就航する他県の動向について、引き続き、情報収集を行うとともに、ジェットfoilを含め離島航路における円滑な船舶更新がなされるよう、船舶建造に係る支援措置の拡充について、県開発促進協議会を通じ、国に要望を行ってまいりたいと考えております。</p>	交通政策課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
宇宙留学について	<p>私も長い間、里親として、留学生の受け入れをしていたが、一方で、この留学制度を実行するにあたり、受け入れていただく里親さんの高齢化等、課題が残っている。</p> <p>町の協力をいただき、国の補助制度を活用しながら対応しているところであるが、様々な要件等があるため、十分な解消には繋がっていないのが現状。もし県の方からも、国で対応していない部分があると思うので、そこに対しての援助ができれば、実行委員会としても大変ありがたい。</p>	<p>山村留学を導入している市町村を支援するため、県教委では、問合せ先や取組内容、次年度の募集に関する情報などを取りまとめ、県のホームページで紹介しています。</p> <p>国の補助制度を踏まえた、県としての今後の支援の在り方については、町とも意見交換してまいります。</p>	<p>離島振興課 義務教育課</p>
南種子町への宇宙教育を行う高校の設置について	<p>宇宙兄弟宣言の調印をしている肝付町では、平成27年に、楠隼という中高一貫校が開設されており、JAXAとの宇宙教育連携協定を結んでいると承知している。</p> <p>南種子町においても、楠隼に負けない教育校の設置を行い、全国から優秀な人材を集め、宇宙センターや関連会社で働く人材を育成することができないものかと考えている。なかなかすぐにはできないと思うが、県と南種子町、JAXAとの連携を図り、その実現に向け、一歩前に進めていただければ、と強く要望する。</p>	<p>種子島にある2つの県立高校では、これまでJAXAとの連携による宇宙に関連する教育活動を実施してきています。また、種子島高校では、東京大学、鹿児島大学等と連携し、模擬人工衛星の研究・制作を、種子島中央高校では、フリーペーパープロジェクトで「高校生が種子島について考える」をテーマに地域の活性化策に取り組むなどの活動を行っています。</p> <p>両校においては、これからもJAXAや地域との連携を図りながら、地域で活躍する人材を育てる魅力ある高校づくりに努めてまいります。</p>	<p>高校教育課</p>

知事とのふれあい対話（南種子町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
ガソリン価格の本土との格差対策について	<p>ガソリン料金について、私たちは昔から本土に比べて高いガソリン料金を負担している。ガソリンも含めて、エネルギーは平等であるのが基本だと思うが、そのことについてどうお考えなのか、お伺いしたい。</p>	<p>離島地域におけるガソリン等価格の本土との格差については、平成23年5月から、国において、離島ガソリン流通コスト支援事業が実施され、種子島でも1リットル当たり10円が補助されており、一定の効果はあるものと考えています。</p> <p>物価などの地域格差の是正は、全国の離島に共通する課題であり、県ではこれまで、国に対し、同事業の継続・拡充について、県開発促進協議会等を通じて要望しているところです。</p> <p>今後とも、離島住民の負担軽減が図られるよう取り組んでまいります。</p>	離島振興課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>島間港へのブリの稚魚の中間育成施設の整備について</p>	<p>島間港における稚魚の中間育成というのは大変重要視されている。2018年頃から、町、県、水産庁、そういうふうなその中間育成の重要性というものを我々も訴えてきて、どうしても中間育成基地を作らないかと。島間港は、漁港ではないので、せいぜい50万匹までは飼えるというふうな設備である。これを全体的に、鹿児島県の水産産業を底上げするためには、まず養殖のブリをたくさん作らないかということなので、その基地をここに作っていただきたいということで、いろいろな資料も作って、水産庁まで上がっている。県の方にもご相談申し上げている。コロナの問題でこの話は今閉ざされているが、またどうか知事にもお願いをして、一緒に国の方にもお願いしていただければと思っていますところである。これは国の直轄事業でやってくれというふうにお願いをしている。</p>	<p>養殖業者の種苗の安定確保や輸出促進のため、県では人工種苗の生産・供給に取り組んでいます。中間育成基地を国の直轄事業で整備するとなると、県外への供給も考えられることから、実現するには、まずは県内のブリ養殖漁業やモジャコ採捕漁業等の関係者の理解を得ながら、連携して取り組む必要があると考えています。県として、どのような対応が可能か検討していきたいと考えております。</p>	<p>水産振興課 漁港漁場課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>ロケットを運ぶ道路の3車線化について</p>	<p>3車線になったら、夜運ばずに、昼間運送、運搬ができる。文科省も、これやっぱり、宇宙開発ロケット運ぶんだから、宇宙開発の予算でも、文科省の予算でもできるんじゃないかと、それは検討するべきだというようなことであつた。そういう話で一生懸命やるが、なかなか熊毛支庁が取り組みをしない。ぜひ、知事の方から、よく調査をして、前に進めるようお願いしていただきたい。</p>	<p>島間港から宇宙センター間の、県が管理する、国道58号（島間上中間）、県道荃永上中線（上中荃永間）、県道西之表南種子線（宮瀬橋から宇宙センターへ向かう区間）は、いずれも2車線で改良済みとなっています。</p> <p>荃永上中線については、勾配がある区間は、一部登坂車線を設けて3車線としていますが、積載物の幅が広いことから、3車線の区間であっても、特殊車両の通行許可基準により、夜間通行としています。</p> <p>また、ロケットは相当な大きさと重量があるため、熊毛支庁は道路管理者として、ロケット運搬に支障がないよう、道路改良を行うなど、打ち上げに協力してきたところです。</p> <p>御要望については、具体的にロケット輸送に必要な道路線形や幅員などの課題を整理し、JAXAや地元関係者などの意見を伺ったうえで対応について検討したいと考えております。</p>	<p>道路建設課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
外国人材への支援について	<p>一時期学校にITが導入された時にITサポーターというのが配属されたが、これと同じような形で外国人の介護職の方が現場に配属になった時に、3ヶ月程度サポーターというような形でもフォローしていただくと、その施設としても安心できるのではないかと思う。</p> <p>外国人人材も含めて、労働人口の確保という観点、特に介護分野の人材確保という点においては、施設も一生懸命努力はしているが、ぜひ知事の見解を伺いたいということと、また、その時の県、それから町、或いは施設との連携、役割についても、あわせてご見解を伺えればと思う。</p>	<p>県では、県内の介護事業所等で就労する外国人介護人材の円滑な就労・定着を図るため、介護の基本、コミュニケーション技術、文化の理解、介護に関する日本語等の介護の技能の向上につながる研修や、介護施設に対し、地域での交流会開催や介護福祉士の資格取得に必要な経費、コミュニケーション促進やメンタルケアに必要な経費の助成等、様々なサポートを実施しています。</p> <p>その他にも、介護現場の業務効率化や介護職員の負担軽減の観点から、介護事業者に対し、介護ロボットやICTの導入を支援しています。</p> <p>また、介護人材の安定的確保に向けた方策等について、介護事業者団体や介護人材の養成施設、行政、教育団体等で構成する県介護人材確保対策検討会を開催し検討を進めているところです。</p>	<p>社会福祉課 介護保険室</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>幸福度、ウェルビーイングについて</p>	<p>鹿児島県を、日本のブータンにしてほしい。 幸福度を基準とする世の中の流れというのをどういうふうにとらえているかということと、それから県として、このウェルビーイングを何か政策に取り入れて、今後やっていくような計画があるのかということ。 それから、そういった取組をする際に、民間とどのような連携をとってやっていくような可能性があるのか、我々はそういうウェルビーイングを目指して取り組んでいますので、ぜひ何かそういった形で、取組を、塩田知事とも、何か、取組ができるようなことがあればという思いもあるので、ちょっとご質問させていただきたい。</p>	<p>地域の魅力を一層高めていくためには、地域資源の磨き上げはもとより、幸福度の重視などの人々の価値観の変容を踏まえた住みやすい地域づくり、テレワークや二地域居住などの新しい働き方・暮らし方の広がりなど、より多くの人材に選んでもらえる地域づくりを目指していくことが重要と考えます。 県としては、こうした時代の流れを的確に捉え、様々な移住・交流対策に、しっかりと取り組むことが重要だと考えています。 現在、県では、改訂中の「かごしま未来創造ビジョン」において、鹿児島を目指す姿を「誰もが安心して暮らし、活躍できる鹿児島」とし、「未来を拓く人づくり」、「暮らしやすい社会づくり」、「活力ある産業づくり」に取り組み、これらの好循環を生み出すことにより、鹿児島を目指す姿を実現したいと考えています。 鹿児島を目指す姿を実現するためには、県民をはじめ、企業、関係団体、大学、NPOなどの多様な主体が、鹿児島を目指す姿やその実現に向けた施策の基本方向を共有し、様々な課題の解決に向け、連携・協働を図りながら進めていくことが重要だと考えています。</p>	<p>総合政策課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
<p>先端技術の実証試験地の誘致について</p>	<p>種子島の人口とか面積からして、先端技術の実証を行うのに適した場所なのかなと思っている。 例として、自動運転という話をしたが、これからのその最先端技術の実証地として、ここ南種子町がそういう土地になっていけばないと。そのためにクリアしないといけないことというのは、おそらくここ町単体ではできないことだと思うので、ぜひ、県としてもそこをバックアップ、プッシュしてもらって、そういうような受入地としてなるといいと思う。</p>	<p>先端技術の実証試験については、国土交通省が、離島地域の課題解決を図るため、地方公共団体と新技術等を有する民間企業・団体等が共同で実施する取組を公募し、実証実験を行う「スマートアイランド推進実証調査」を行っており、昨年度は、広島県大崎上島において、小型自動運転・オンデマンド予約システムを活用した島内港間の交通・物流の実証実験が行われております。</p> <p>また、県内市町村においては、瀬戸内町のドローンを用いた地域課題解決への取組や、肝付町のおでかけタクシー（AIタクシー）など、先端技術を活用した取組が進められているところです。</p> <p>県としては、地域の実情に合わせ、最新技術の活用可能性を検討することは重要と考えており、現在、新たなモビリティサービスであるMaaSや各公共交通機関のオープンデータ化等の取組について、検討を進めたいと考えているところです。自動運転の活用可能性については、国の動向等を注視するなど、情報収集に努めてまいります。</p>	<p>離島振興課 交通政策課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
島間港の防波堤の南海トラフ地震対策について	<p>島間港について、確か県管理の港湾だったと思うが、島間港の防波堤が今、延長が完了したというふうに聞いているが、この先必ず南海トラフの大地震が来ると言われている。南種子町にとって島間港というのは、最も大切な、物資が入ってくる港なので、当初予定していたその防波堤で、南海トラフの津波を防ぐことができるのか。</p>	<p>島間港の防波堤は、港内の静穏度向上のため整備しており、南海トラフ地震による津波を防ぐことが目的ではありません。</p> <p>津波からの防護については、県地域防災計画において、住民等の避難を軸とした既存施設の補強など必要な整備に努めることとしております。</p> <p>また、県では、平成24、25年度の地震等災害被害予測調査により、南海トラフ地震等の発生による津波到達時間や津波高等の予測を行い、国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画に基づき、平成26年度に南海トラフ地震防災対策推進計画を作成し、津波からの円滑な避難や防災訓練、地震防災上の教育など市町村が定めるべき事項について明記したところです。</p> <p>南種子町においても、南海トラフ地震防災対策推進計画を作成済みであり、計画に基づき、毎年度、防災訓練等が実施されているところです。</p>	<p>港湾空港課 危機管理課</p>
島間港への高速船の発着について	<p>高速船を停めるためには、防波堤がさらに延長が必要だというふうに聞いている。</p> <p>南種子町民にとってあそこで高速船が発着できるというのは、南種子町民の負担が大きく軽減されるし、安全面とそれから高速船の離発着、浮桟橋等で課題が多いようだが、あそこの港をさらに拡張して、そういった人の出入りもできるような港になれば、南種子町にとってすごいプラスになるのではないかなというふうに、思っている。</p>	<p>高速船就航に係る島間港の整備については、今後の高速船就航に向けた船社の動向等を踏まえる必要があると考えています。</p>	<p>港湾空港課</p>

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
サツマイモ基腐病について	<p>本町の基幹作物であるでん粉用甘藷及び安納芋において、去年より基腐病がかなり出ている。今年も対応し、作付収穫をしているが、かなりの被害が出ている。知事の方としても、県の予算をかなり取ってもらって、本腰を入れて、これを対応していかないと、基幹作物であるサツマイモがもう作れなくなる状況に陥っている。ぜひよろしく願いしたい。</p>	<p>令和4年産に向けては、国との共同研究により発病抑制効果が確認された種いもの蒸熱処理装置について、農協等の育苗施設における導入を支援するほか、マスメディア等を活用した防除対策に係る幅広い注意喚起や基腐病に強い品種の増殖技術確立に係る試験研究に取り組むこととしています。</p> <p>また、さつまいも生産者の経営安定を図るため、国の事業を活用し、これまでの資材等の支援や、継続栽培支援に加え、新たに交換耕作排水対策・土層改良等に対する支援を行うこととしております。</p> <p>県としては、引き続き、関係機関・団体と一体となって、基腐病対策に取り組んでまいります。</p>	農産園芸課
農作物の輸送に係る助成について	<p>農作物の運賃助成の件について、かなり運賃助成が出ているが、なんせ離島なので、作物を作ってもやはり、都会に出すと運賃がかなりかかってくる。今も助成をもらってるが、今の助成では、到底十分とは言えないので、こちらの方も、県の方として予算を組んでもらえたらと思う。</p>	<p>種子島から農水産物を本土に出荷する際には、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金等を活用し、国、県、市町村において海上輸送費等に対する支援が行われております。</p> <p>特定有人国境離島地域社会維持推進交付金につきましては、離島の実情が反映され、更なる制度の充実が図られるよう、引き続き、市町村と連携しながら、県開発促進協議会等を通じて、国に対し、要望してまいりたいと考えております。</p>	離島振興課

知事とのふれあい対話（南種子町）における参加者の主な意見及びそれに対する県の対応等

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
トップセールスについて	県産品について、知事も忙しいとは思いますが、知事自らトップセールスをお願いしたいと思う。	<p>トップセールスについては、コロナ禍の影響で県外との往来が難しい状況が続いておりましたが、コロナの感染状況が落ち着いてきた昨年10月に、本県の物産展で最も規模の大きい東武百貨店（池袋店）を訪問し、トップの方々に対して、今年度初めて年2回開催した物産展を、来年度以降も年2回開催いただくよう要請し、ご理解いただいたところです。</p> <p>今後とも物産展や量販店でのトップセールスなどにより、安納芋をはじめとした県産品のPRや販路開拓などを行っていきます。</p>	かごしまPR課
知事とのふれあい対話の実施について	今日、知事とのふれあい対話ということで、対話ができてるが、来年、再来年と、続けて欲しいなと思う。	<p>知事とのふれあい対話については、令和3年12月末時点で23市町村において開催しました。知事と県民の皆様とが直接対話をする機会は、大変貴重であり、県としてはできるだけ早期に全市町村で開催したいと考えています。</p> <p>引き続き、知事とのふれあい対話など様々な機会を通じて、県民の皆様の声を直接お聞きし、各般の施策に反映していきたいと考えています。</p>	広報課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
災害医療について	<p>年々温暖化が進み、年々台風がかなり大きくなっているが、県として、今後、種子島直撃した場合、けが人が出たとかいう場合に今の島内の医療では、ちょっと心配な面があるし、本土の方に輸送するにしても、かなり不便な面があると思う。県として、今後も、防災に対しての対策はどのような対策を考えているのか教えてほしい。</p>	<p>県においては、災害時の医療に対応するため広域搬送への対応、医療救護チームの派遣等の機能を担う災害拠点病院として種子島医療センターなど、県内14か所の病院を指定しているところです。 また、離島で発生する救急患者のうち、離島での対応が困難な患者については、ドクターヘリや県の消防・防災ヘリ、自衛隊ヘリ等により、鹿児島市等の病院へ搬送しているところです。</p>	保健医療福祉課
水田農家に特化した機械導入の助成について	<p>水田の関係について、私が営農している荃永地区は、昨年度から圃場整備が始まった。 圃場整備が始まったことによって、圃場が大きくなり、今まで使っていた機械では、どうしても小さく、時間的にも、能力が間に合わない。 そこで、この圃場整備を機に、若手が、規模拡大をするために、機械導入の助成を、ぜひ、水田農家に特化した助成をお願いしたい。</p>	<p>水稲作については、担い手や農業法人等が、農業経営の発展や農業・農村の振興、産地の収益力強化を図る目的で農業機械等を導入する場合、補助事業の活用ができますので、南種子町または熊毛支庁農政普及課にご相談ください。</p>	農産園芸課 経営技術課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
養護学校という名称について	<p>2007年度より、学校教育法の改正によって、養護学校から特別支援学校へ一本化されている。鹿児島県の多くが、いまだに養護学校という校名が多い。昨年は、鹿児島県特別支援学校校名の早期変更をということで、署名活動をさせていただいた。九州では、鹿児島県だけが養護学校という校名になっていて、他の県では、特別支援学校とか、日の国、輝き、とか名称をつけて、何かとても夢のあるような名称をつけられている県があった。校名のことについて、お考えがあれば、聞かせていただきたい。</p>	<p>平成19年の学校教育法の改正に伴い、盲学校、聾学校及び養護学校は障害種別を超えた「特別支援学校」として位置付けられたところですが、その際、既に設置されている学校については、従来の名称を用いることも可能とされたことから、本県では、「養護学校」の校名を引き続き使用しているところ。近年、関係者から「特別支援学校」の名称を用いて欲しいとの要望が出されていることから、現在、その対応について検討を行っているところ。近年、関係者から「特別支援学校」の名称を用いて欲しいとの要望が出されていることから、現在、その対応について検討を行っているところ。</p>	特別支援教育室
重度心身障害者医療費助成制度について	<p>重度心身障害者医療費助成の受給者になる方、障害者は多い。全国的にも窓口で無償化にされているところもあるが、鹿児島県ではまだそのような動きがない。今後どうなっていくのか、そういったこともお聞きしたい。</p>	<p>本制度については、重度心身障害者の方々の利便性の向上を図るため、他県の調査結果や、制度変更に伴う自治体の財政に与える影響等も考慮し、支給方式を現行の償還払い方式から自動償還払い方式に変更するとともに、新たに精神障害者を支給対象とすることなどについて、市町村や医師会等の関係機関・団体等と協議を行い、御意見を伺いながら、制度変更に向けた検討を進めてまいります。</p>	障害福祉課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
関係人口の増加について	<p>関係人口について、これはいくらでも増やすことができると思っています、この関係人口を増やすのが、私個人的にもとても大事だと思っています。</p> <p>関係人口の増加に対する取組について何か行われているのか、されるご予定があるのかという点と、こういった民間で、関係人口の増加の取組をしていく中で、期待されることとか、こういったことをしていったらいいんじゃないかとかがあれば教えていただきたい。</p>	<p>県では、地方に関心を有する都市住民等と県内地域との関わりを深める機会を提供するため、地域課題解決を目的としたオンラインでの交流事業やワーケーション事業など、関係人口の創出・拡大の取組を推進しています。</p> <p>県としましては、引き続き、市町村と一体となって、関係人口の創出・拡大を目指した取組を進めてまいります。</p>	地域政策課
移住しやすい環境づくりについて	<p>移住希望のサーファーが、1人では借りれる家が少なく、断念する方がたくさんいるのも事実。移住しやすい環境づくりが必要だと思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。</p>	<p>移住希望者の移住を促進するためには、空き家の活用は有効であり、南種子町においては、空き家の改修費用の助成や空き家バンクの運営など、空き家の活用を推進するための取組を行っているところです。</p> <p>県においては、引き続き、空き家対策に関する研修会の開催や情報提供などを行う市町村の取組を支援してまいります。</p>	住宅政策室

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
畜産農家のヘルパー制度の創設について	<p>畜産農家は、年中無休で働かなければならないというのが一番の問題じゃないかと思う。現時点で肉用牛ヘルパー事業というのがあって、それも活用しながらやっているが、今の現状では畜産農家が畜産農家のヘルパーをするという現状で、もう限界に近い状態になってきている。町の方でも、お助け会というものを設定してもらっているが、これも技術的な専門的な知識がないと、畜産農家は手広で、旅行に行っても誰か1人残らなければいけないとか、そういうことだろうと思うので、ぜひ県の方でも、そういうヘルパーというか、そういう制度について、畜産農家が休めるような知恵と支援をいただきたい。</p>	<p>肉用牛農家が定期的に休日を設定、「ゆとりある肉用牛経営」を実現するための手段として定休型ヘルパーの取組があります。県内では、JAそお定休型ヘルパー部会やデーリィサポートかごしまで実施しているほか、出水地域や東串良町でも体制づくりを進めています。定休型ヘルパー設立にあたっては、ヘルパー要員の確保、作業内容、料金体系など、組織運営について検討される場合は、支庁・町・農協に御相談いただきたいと思ひます。</p> <p>県としても、肉用牛の生産振興に必要な取組として、関係機関・団体と連携し、引き続き支援に努めてまいります。</p>	畜産課
商工会の地域活動への助成について	<p>商工会の活動の中で、一番に活動をしていただいている商工会青年部について、少ない部員でアイデアを出し合いながら活動をしている。</p> <p>若い人たちが自ら企画立案そして実行していくことがまちの活性化に繋がっていくと思う。しかしながら、いろいろな活動をしていく上で、商工会の予算にも限りがあり厳しいところがある。そういった地域活動の助成等を充実させていただけたらなと思う。</p>	<p>県では、商工会等が行う地域活動等への支援は行っていませんが、商工会等の青年部、女性部の組織強化及び活動の推進を図るための経営改善普及事業の一環として実施する各種研修会、講習会等に要する経費の支援を行っております。</p>	商工政策課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
離島への合宿誘致について	<p>離島と本土との人の行き来を活発にして、地域の活性化につなげることはできないかなと思う。そこで離島への合宿誘致を積極的にPRしてもらって、誘致活動をさらに盛り込んでもらえたらと思う。</p> <p>離島に合宿とかに来る場合は、どうしても交通費、宿泊費等は本土間で行われる場合とは違い、かなりの経費がかかる。</p> <p>現在、合宿に対しての助成とかがあるかどうか分からないが、あるのであれば、さらに充実していただいて、離島に行くメリットをPRしてもらえればと思う。</p>	<p>スポーツ合宿は、地域経済に大きな波及効果をもたらすとともに、地域のPRにもつながることから、県では合宿セミナーの開催をはじめ、合宿ガイドやパンフレットを作成するなどの誘致活動を行っています。また、合宿ガイドなどには、種子島のサーフィンをはじめとする離島のアクティビティを紹介するなどのPRを行っています。</p> <p>また、合宿助成について、県としましては、県内外のスポーツ団体に対する合宿助成「スポーツ合宿 in かごしま促進事業」を実施しているところです。</p> <p>なお、離島における合宿助成の充実について、まずは、地元町においても合宿誘致への支援のあり方を御検討いただきたいと考えています。</p>	スポーツ振興課
離島からの学生たちの遠征や合宿に係る経費の助成について	<p>離島からの学生たちの遠征や合宿についても、経済的負担が大きいので、交通費、宿泊等を少しでも補助等をしていただければありがたいと思う。</p> <p>さらには、学生の応援に行く保護者についても、同様に補助対象できないものか考える。</p> <p>1人でも多くの保護者が応援に行くことによって、その行った先での宿泊施設や、飲食店業者が潤っていくのではないかなと思う。</p>	<p>現在、県では、離島の学校に在籍する生徒の経済的負担を軽減するため、中体連や高体連の県大会等への参加経費の一部を助成しています。</p> <p>また、国に対し、県開発促進協議会を通じて、離島の学校に在籍する生徒が参加する文化・スポーツ大会への交通費及び宿泊費の助成制度の創設について要望しているところです。</p>	保健体育課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
道路の植樹帯の整備について	<p>種子島の幹線道路である国道県道の植樹帯について、観光客等から、道路が汚いという意見がきている。南種子町の植樹帯については、わりかし綺麗にしていると思うが、西之表、中種子を通っていると、道路については、年1、2回の伐採で荒れている状態になっている時が多いようだと言われている。整備ができないようであれば植樹帯を減らすなどとした対策を取れないかなと思う。</p>	<p>植樹帯の剪定については、主要幹線道路や通学路などを優先的に実施しておりますが、植樹帯の繁茂により道路管理上支障となる場合もあることから、周辺環境の調和や地域のご意見を伺いながら部分的な撤去について取り組んでいるところです。</p> <p>ご指摘の区間については、現地の状況や植樹帯の役割も確認した上で、地元市町と協議し、撤去も含め適切な維持管理を行ってまいります。</p>	道路維持課
新築物件に畳部屋を整備した場合の助成について	<p>新築物件等で、畳の部屋を2つ3つ、2部屋、3部屋増やしてもらった購入者には、作っていただいたら、補助金対象になるとか、税金が安くなるとか、してもらえば、畳の部屋を入れる人が多くなるんじゃないかなということ、畳屋さんとしては、とても嬉しい。畳さんがうれしくなるような施策を、どうかないかなということをお聞きしたい。</p>	<p>県では、御要望のような助成は行っていないところですが、例えば、畳を活用した新たな製品等を開発した場合に、県の機関が試験的に発注し、販路の開拓や受注機会の拡大を支援する取組などを行っているところです。</p>	産業立地課

意見項目	主な意見（要約）	県の対応等	課名
レザーリーフファン農家の担い手について	<p>レザーリーフファンは鹿児島ブランドに認定されている。しかし、この10年の間に高齢化が進み、南種子町の生産量はどんどん低下している。自分たちの地域でも、今後、レザーリーフファンをしている人が減っていく。ビニールハウスは、以前より倍以上の値段になっていき、新しく建てるのは厳しくなっている。種子島は台風の通り道であるので、強い立派なビニールハウスがないと栽培ができない。私達のように、子育てをしながら、好きなときに収穫ができ、一年中出荷のできる魅力的な作物だと思う。しかし、若い人たちが簡単に始められるようないい事業がない。このままだと、生産者が減少し、日本一の種子島レザーリーフファンが、なくなってしまうかもしれない。</p>	<p>県は、各地域振興局・支庁に「就農相談センター」を設置し、関係機関・団体と連携して、県内外での就農相談や経営確立に必要な資金の交付などに取り組み、新規就農者の確保・育成を図っているところです。</p> <p>また、ハード面の整備については、新規就農者でも活用が可能な事業も用意しているところです。</p> <p>なお、栽培講習会や経営安定のための経営管理指導など、担い手の発展段階に応じた各種施策を実施しておりますので、県熊毛支庁農政普及課または、町役場へお問い合わせください。</p>	経営技術課
離島急患搬送（鹿屋航空分遣隊の廃止）について	<p>海上自衛隊の鹿屋航空基地内にある第22航空隊、鹿屋航空分遣隊は、2022年度末で廃止され、配備されている救難ヘリ、UH60Jが、2020年度内に、除籍されることになったという情報を知らされた。</p> <p>悪天候や、夜間等、非常に自衛隊の救急ヘリに、島民は、お世話になってきている。</p> <p>そこで、その機能を担う後継機種とか、組織を自衛隊全体で維持していくとか、そういう、あとの対策がどうなっているのか。知事のもとには、救急ヘリの機能は残すというふうな情報は届いてないのか、お尋ねする。</p>	<p>自衛隊による離島からの急患搬送については、南北600キロメートルにわたる広大な県域に27の有人離島を有する本県にとって、県民の生命にかかわる重要な問題でありますことから、11月16日に防衛省を訪問し、今後の離島急患搬送体制が維持されるよう、強く要望してきたところであります。今後、全自衛隊による具合的かつ実効性のある搬送体制が構築されるよう引き続き、防衛省等、関係機関と協議を行ってまいります。</p>	消防保安課